

アーバンデータチャレンジ東京 2013

実行委員会（第 7 回）

議事録（案）

日時：平成 25 年 11 月 6 日（水）18:00～20:00

場所：東京大学駒場第 2 キャンパス（An403）

【出席者】（敬称略、順不同）

東京大学：瀬戸・橋本、日本工営：伊藤・片柳、長大：増田、国際航業：和田、朝日航洋：大伴、建設技術研究所：藤津、IIJ：濱里・伊藤、東京都建設局：増田、岡田、JIPDEC：郡司、NTT 空間情報：青島、JACIC：高橋、インディゴ：高橋、新世代 M2M：川島、GeoRepublicJapan：関

（資料）

資料 1：関連イベント報告

資料 2：登録データリスト

資料 3：3rd イベント報告

資料 4：G 空間 EXPO イベント計画案

資料 5：評価方法案

参考資料 1：前回議事録

参考資料 2：スケジュール表

参考資料 3：実行委員名簿

■UDCT 関連イベント報告

○UDCT に関連したイベントの開催報告や今後のスケジュールについて、実行委員内の情報共有を図った。以下にその概要を示す。

- ・G 空間 EXPO でも LOD とコラボレーションした企画を実施するが、それに先立ち、9 月 28 日に開催された LOD チャレンジ 2013 キックオフイベントにて、東大関本先生が初壇し、UDCT2013 の取組に等について紹介した。
- ・11 月 21 日に開催する経産省・総務省主催の「オープンデータ・アイデアソン」における東京での開催場所は東大であり、JIPDEC も関係している。また、11 月 21 日に UDCT 関係者も参加、またイベントの運営を協力する。
- ・首都圏を中心として PR について、以下の進展があった。

- 八王子市----- 非公式（現状）であるが、勉強会への協力依頼を受けている。
- 横浜市----- 11月11日に担当者との打合せを予定している。
- 東京都----- 職員（150名程度）を対象としたオープンガバメント・オープンデータ勉強会を11月または12月に開催することを検討しており、勉強会への協力依頼の可能性はある。
 - ⇒勉強会は参加人数も多く、講演会形式を予定しているとのこと。
 - ⇒都職員の意識はまだ高くはないことから、是非とも協力をお願いしたいとのこと。
 - ⇒UDCT単独ではなく、AIGIDを主体とした協力について検討する。

■収集データに関する情報共有

- 自治体から収集したデータについて、実行委員内の情報共有を図った。以下にその概要を示す。

【CKANへのデータ登録】

- ・11月5日現在、427データセットを登録しており、参照可能である。
- ・このところ登録したデータセットとしては、千葉市のデータ、民間データとして、NTT空間情報殿からのGEOSPACEデータが挙げられる。
- ・また、国が保有するデータセットとして、国土数値情報の一部を登録済である。

【ハーベスティングによるデータ取得】

- ・鯖江市のCC-BYデータについては、ハーベスティングにより自動取得して登録している。
- ・ハーベスティングによるデータ取得は、CC-BYで公開しているデータセットについてはデータ提供者（上記では鯖江市がこれに当たる）の許諾は、ライセンス上必須ということではないが、現在は許諾を受けた上でハーベスティングにより取得している。
- ・経産省・総務省による「オープンデータ・アイデアソン」においてもCKANを構築する予定であり、そのCKANからのハーベスティングが可能となると、より一層、データセットが増えることも期待できるため、連携についても今後検討していく。

■3rd ステージイベントの結果報告

- 10月3日に実施した3rd ステージイベントの結果を基に、イベントの感触や次回イベントへの活用方法等について意見交換を行った。以下にその概要を示す。

【3rd イベント結果に関する今後の利活用】

- ・UDCTのイベントに限らず、実行委員が今後参加する関連イベントにおいて、現在HP上に公開している3rd イベント結果内容は積極的に活用していくことを基本方針とする。
- ・イベント結果内容は引用しやすい形式であることが望ましく、リファレンスとして

参照可能な URI を PDF（現在の公開ファイル形式）に付与することや、SlideShare への登録等を今後検討していく。

- ・UDCT と LOD のダブルエントリーは可能であるが、評価点としては下がる可能性がある。

【グループディスカッションに関する感触】

- ・ディスカッションの時間を 1 時間 20 分としたが、進行を行った感触として、時間として妥当であった印象がある。例えば、G 空間 EXPO で想定している 50 分であったら、イベント前の準備がより必要であったと感じる。
- ・「観光」グループのように、議論が活発であったグループについては、その場限りのグループでは無く、今後も継続して活動していけるよう、実行委員からのフォローが必要（特に、今後のイベント広報や応募数を増やすために）であると感じる。
- ・個別フォローの方法等については検討中であるが、G 空間 EXPO イベントについては、3rd ステージ参加者への個別アナウンスは実施している。

【作品応募に関する懸念事項】

- ・先の「観光」グループにおけるグループの形成はとても良い事例ではあったが、他のグループも含め、作品応募を見据えた“チーム化”までには至っておらず、G 空間 EXPO イベントでの理想として、“チーム化”がある。
- ・作品の応募、賞金の扱いについては、例えば、企業の場合に企業の技術を使っでの応募の場合、個人として賞金を拝借できるのか、企業が受け取るべきなのか、といったところは、各企業、細かくは応募者の上司の裁量に依るところである。
- ・企業、自治体ともに、作品づくりを業務時間外に行ったかどうか、等について、様々な捉え方、考え方があある。
- ・作品応募に関する FAQ として、上記のような想定される懸念事項について整理したほうがよいのではないか。

■G 空間 EXPO イベントに関する意見交換

○G 空間 EXPO イベントの内容について意見交換を行った。以下にその概要を示す。

【イベントの内容】

- ・アイデアの種や課題を展開し、それを深耕することが主目的である。
- ・話題提供については、3rd イベント結果を基に、作品づくりを行うとしたら？といったスタンスの事例紹介を考えている。
- ・LOD チャレンジ側の発表に関する記録係は基本的には不要であり、UDCT の実行委員は、UDCT 側の発表に関するサポートに重きを置く。
- ・実行委員の役割分担は、イベントへの参加可否等を踏まえ、再度調整・を図る。また、イベント当日に割り当てを変更する等、フレキシブルな対応を図る。
- ・アイデアの集約に関するツールとして、LOD チャレンジにてこれまで活用してい

る idea.linkdata を、UDCT でも積極的に活用するようことを検討する。

【当日のスケジュール】

- ・グループワークの時間が 50 分というのは、少し短く、意見がまとまらないことも想定される。そのため、グループワークの結果共有を 1 グループ 3 分としてスケジュールリングしているが、1 グループ 2 分とすることを運営側の想定としておく。
- ・会場そのものは、13:30 には完全撤去する必要がある。また、参加者の連絡先交換等の時間も考慮すると、閉会時間は極力延ばさない（最終手段）こととする。
- ・参加者の連絡先交換は、今後のイベントを見据えても非常に重要である。紙資料へのサイン入れ等も効果的ではないか。

■応募作品の評価に関する意見交換

○応募作品の評価方法（案）について意見交換を行った。以下にその概要を示す。

【評価軸】

- ・新規性、有用性、実現可能性の 3 軸で各部門の応募作品を評価することを既に公表しているが、部門毎に、重みを付けて評価する必要があるのではないか。
- ・一次審査における評価（①）と最終審査での評価（②）の比重は、①>②とすることが自然ではないか。
- ・オーディエンスによる評価の反映方法は様々が考えられる。点数を加点する（上記に加え、③として加点する）方法、集計し、上位 10 名程度を対象に、上位者からポイントを加点していく（第 1 位：+20 ポイント、第 2 位：+15 ポイント・・・等）方法等が考えられる。
- ・評価方法については本委員会での意見を基に再度検討を行い、協議の上決定することとするが、評価方法を公開することも重要ではないか。
⇒LOD チャレンジでは、今年度より公開予定とのこと

【応募における参加者と評価者】

- ・G 空間 EXPO への参加希望者が現時点で少ないこと等を考慮し、実行委員が応募するというバッファは残しておきたい。
- ・評価者は、応募作品全てを見るとなると、時間もかかり、作業量が多くなることが懸念される（応募数にもよるが、LOD チャレンジの場合、データ部門：87 作品、アプリ部門：44 作品、アイデア部門：50 作品、ビジュアルライゼーション部門：24 作品を全て確認し、多大な労力であったとのこと）。
- ・よって、一次審査前に、ある程度足切りが必要ではないか、という意見が挙げられた。
- ・自治体特別賞、スポンサー賞と、金・銀・銅賞のダブル受賞は可能とする。
- ・自治体特別賞の評価者は、自治体を想定しているが、評価対象自治体のデータを使ったものが評価につながる、という視点での評価は望ましくなく、他の自治体データ

を対象としたものでも、評価自治体に展開を考えたら評価できるのでは？といった視点での評価が望ましいのではないか。

- ・応募段階で、UDCT のこれまでのイベントで得られた指定課題の内、その課題解決を目指すものが重要となってくる。応募フォームについて、拡充を図る。

■その他

○G 空間 EXPO イベントへの参加呼びかけについて、広報、情報拡散を実行委員が実施していく。

○次回は 12 月 4 日（水）18～20 時を予定する。

以上